



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 (03) 3351-5038 アドレス dsstsw@jaswhs.or.jp



<目次>

1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い
2. 会議の報告及び今後の会議の予定
3. 石巻・現地情報 (写真掲載有)
4. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告
5. 現地支援活動報告①②
6. 現地・事務所ボランティアの感想文



1. 災害支援活動協力員募集と寄付金等のお願い

週末、仮設住宅で相談会を開催しています。

相談会のみ活動も可能ですので、参加をぜひご検討ください。

多くの方のご協力をお待ちしております。

11月のボランティアカレンダー

(10月26日現在)

日付	事務所	現地	日付	事務所	現地	日付	事務所	現地
1[Tue]	2	2	11[Fri]	1	2	21[Mon]	1	1
2[Wed]	1	2	12[Sat]	1	3	22[Tue]	○	1
3[Thu]	1	2	13[Sun]	休	3	23[Wed]	1	2
4[Fri]	1	3	14[Mon]	1	3	24[Thu]	1	2
5[Sat]	1	2	15[Tue]	2	1	25[Fri]	1	3
6[Sun]	休	1	16[Wed]	1	1	26[Sat]	1	3
7[Mon]	1	1	17[Thu]	1	2	27[Sun]	休	1
8[Tue]	1	1	18[Fri]	1	2	28[Mon]	1	1
9[Wed]	1	1	19[Sat]	1	1	29[Tue]	2	1
10[Thu]	2	1	20[Sun]	休	1	30[Wed]	2	1

*数字は必要な人数・○は足りていることを表す。

① 支援活動協力員登録人数（10月26日（水）現在）

- ・ 現地支援活動協力員 : 179名
- ・ 事務所支援活動協力員 : 92名

皆様お忙しい中のご参加で人員が不足しております。ご協力頂ける方は下記までご連絡下さい。

[災害対策本部 \(03-3351-5038 又は dsstsw@jaswhs.or.jp\)](mailto:dsstsw@jaswhs.or.jp) 平日・土・祝 10~17時

※メールでご連絡の際は、件名に「(現地)または(事務所)災害支援活動協力員希望」とご記載下さい。当会ホームページに[現地ボランティア応募フォーマット](#)が掲載されています。

② 現地支援活動について

宮城県大崎市古川のマンションが活動拠点となります。

平日1日3~4名体制 週末（金曜日~月曜日）1日4~5名体制を予定しています。

- ・ 引き継ぎ等の関係により、原則3日以上のご参加をお願いしていますが、相談会（2日間）のみの参加も可能です。
- ・ 毎週金曜日に災害対策本部副部長が現地入りし、統括をしていく予定です。

③ 事務所支援活動について

活動日程 : 月~土、祝日 の 10時~17時 ※半日での参加も可能です

活動内容 : 現地支援活動協力員の派遣調整、現地とのやりとり、電話・メール対応、事務処理
1日2名を目標にご参加頂いております。

財政的に厳しい状況が続いているため、事務所協力員は交通費1200円上限とさせていただきます。

④ 寄付金の振込口座：郵便振込口座

皆様の協力をお願い申し上げます。

口座名義 : 日本MSW協会災害支援金

口座番号 : 00100-1-89515

支店名 : 〇一九（ゼロイチキユウ）店（019）

口座種別 : 当座

※他の金融機関からお振り込みいただく場合には下記のようにお願いします。

ゆうちょ銀行 口座種別 : 当座預金 支店 : 〇一九（読み方:ゼロいちきゅう）店

口座番号 : 89515

備考 : お振り込みいただく金額に制限はございません。

ご自分のお名前とご連絡先をご記入ください。

お振込手数料は、各自でご負担ください。

***寄付の用途は、当協会の行う東日本大震災災害救援活動に使うことが決定しています。**

⑤ 活動内容の掲載について

石巻以外の地域で活動している方や被災者を受け入れている機関などの活動を本紙に掲載したいと思います。ご協力いただける方は[災害対策本部](#)までご連絡ください。

2. 災害対策会議の予定

次回の日程は検討中です。
決まり次第お知らせします。

3. 石巻・現地情報



① 石巻での活動内容 ※状況によって内容変わります。

- ・ 仮設住宅の巡回及び入居者の相談支援
- ・ 遊楽館を退所した方のフォローアップ
- ・ 地域の保健医療福祉機関のニーズ把握と対応
- ・ 福祉関係職種との連携と協働（カンファレンス）
- ・ 経過サマリー作成業務
- ・ 在宅医療を担う医療機関との連携
- ・ 茶話会（医療福祉・生活相談会）の開催及び準備

② 宿泊場所

大崎市古川の2LDK マンション。

*JR 東北新幹線 陸羽東線 古川駅より徒歩約9分

③ 現地移動車両

ガリバーインターナショナル社様のご厚意により、当会へ自動車を1台貸与していただいています（保険や車検関係はガリバー社が負担してくださっています）。

現地ボランティアの皆様の足としてご利用いただけます。

車種：トヨタ「イスト」 ナンバー「野田 501 ち 3967」 銀色

④ 携帯電話

ソフトバンク様より、当会へ20台の災害用電話の無料貸し出しをしていただいています。

7月1日より、現地および、協会本部はソフトバンクの携帯電話を利用しています。

渡波地区の様子



石巻市立病院の様子



石巻市立病院周辺の様子



日和山公園からの景色



4. 仮設住宅における医療福祉相談会の報告

現地担当者 佐藤 杏

10月22日・23日に3回目の仮設住宅における医療福祉相談会を実施しました。

今回は生活を少し強調し、茶話会と銘打ちました。

1日目は1名の来談でしたが、2日目には1日目の来談者のつながりで5名の方、それ以外に2名の方がチラシをみて来談されました。

茶話会の話題は「被災前の生活」「被災時の様子」「避難所での生活」「震災に対してのそれぞれの思い」「自治会の必要性」などでした。

特に自治会の発足は、コミュニティの形成について、一緒に関わっていける可能性があります。

石巻市へ報告の上、対応方法についても検討することを皆さまにお伝えしました。



茶話会の様子



会場の様子



配布したチラシ&ポスター



個別相談の様子

5. 現地支援活動報告①

震災から半年が経過した今

小淵 匡 (国立病院機構 沼田病院)

平成 23 年 10 月 12 日～14 日まで、半年ぶりに現地ボランティアに参加しました。

市内の瓦礫は見違えるほど片付いていましたが、津波被災地はまだ無人の“焼け野原”と化しているように見えました。場所によっては地盤沈下して冠水の激しいところもあるらしく、防波堤ができていないところもまだあるそうです。

石巻市内の避難所は 9 月で全て閉鎖され、多くの方が仮設住宅に暮らしています。復旧・復興の道のはまだまだ遠く、自分にできることをしていきたいと思いました。

現地を知ることは、人から聞くより、自分の目で見て、感じる事が何よりも大切だと思います。今後時間のあるときは相談会にぜひ参加させていただきたいと思っています。



① 日和山公園からの写真(左側:4月の写真 右側:10月の写真)



② 石巻市立病院付近(左側:4月の写真 右側:10月の写真)



③石巻市立病院付近(左側:4月の写真 右側:10月の写真)



④門脇町付近(左側:4月の写真 右側:10月の写真)



⑤門脇小学校(左側:4月の写真 右側:10月の写真)



⑥門脇町付近(左側:4月の写真 右側:10月の写真)



⑦日本製紙付近(左側:4月の写真 右側:10月の写真)



課題

- ・仮設住宅の方々を地域の社会資源へ繋げていけるよう各機関との連携
- ・活動にあたり、協会の短期目標・長期目標をはっきりさせる事
- ・現地の様子を早く、わかりやすく、情報発信する事

今後参加される方への情報・アドバイス

- 現地への移動（実際にとった手段、ルート、出発・到着時刻等）
 - <行き>関越自動車道 渋川伊香保 I C 11:00 頃 → 三陸自動車道 矢本 I C 16:00 頃
 - * 東北自動車道 宇都宮 S A 12:30~13:00 まで食事休憩
 - * 18:00 まで石巻市内を視察
 - <帰り>三陸自動車道 矢本 I C 19:00 頃 → 関越自動車道 渋川伊香保 I C 3:30 頃
 - * 東北自動車道 国見 S A 20:30~21:30 まで食事休憩
- 現地での移動（実際にとった手段）
 - ガリバー社より借用中のイスト
- 事前に得ておくとい知識
 - 現地の地理

参加を検討されている方へのメッセージ

参加するまでは色々心配になり不安などもあると思いますが、心配せずに参加してほしいと思います。
「できるか、できないか」ではなく「やるか、やらないか」ではないでしょうか？
やらないで後悔するよりやって後悔した方が得るものが多いと思います。

日本医療社会福祉協会や災害対策本部への要望

現地及び事務所ボランティアの皆さんは大変だと思いますが、引き続きよろしくお願ひします。
遠方からでも協力できることはしたいと思います。

5. 現地支援活動報告②

石巻市社会福祉士等相談支援事業：医療福祉・生活相談会に参加して ～ジェネラリストとして、私たちの専門性を被災地に届けましょう！～

草水 美代子（西片医療福祉研究会）

私は、10月22日～24日の3日間、仮設住宅の相談会の運営およびネットワーキング業務に参加させていただきました。個人的には、遊楽館の半年の活動を振り返り、皆さまに報告をさせていただくための資料を整理しているところです。

ボランティアカレンダーを拝見すると、現地の協力員が不足していますので、スケジュールを調整し、現地に行って参りました。現地に常駐されているSW佐藤さんは、とてもバランス感覚がよく、冷静で、熱意あるソーシャルワーカーさんです。地域を基盤としたソーシャルワーカー実践を展開する上で、とても的確な行動をされていました。

さて、仮設住宅の相談会は、石巻市仮設住宅管理室からの依頼で行っている事業です。

22日と23日の相談会は、ソーシャルワーカーは、佐藤さんと私の二人で取り組みました。この2日間の相談会で、今後の仮設住宅で支援活動方針及び計画を立てていくための材料を沢山いただいたように思います。

現在、市役所の仮設住宅対策として、地元の見守り隊や保健師、地域包括支援センター職員や市立病院の看護師さんなど、さまざまな立場の方々が、仮設住宅を巡回しています。相互に補い合いながら効果を出せることが重要視され、役割分担や、関わり方を話し合っているようです。日本医療社会福祉協会は、福祉避難所の支援が終了した10月から仮設住宅の支援活動を始め、3回目の相談会開催です。ポスティングやポスター掲示などを広報手段とし、来談者を待つという形です。（今回は、ポスティングやポスター掲示は、佐藤さんの一人で行っていただいたことを皆様にお知らせしておきたいと思います。1000枚近くのポスティングは、お一人ではご負担が多すぎると思いました。佐藤さんありがとうございます）効果的なアプローチとして、アウトリーチをした方がよいというご意見もあるかと思いますが、現在の仮設住宅の住民の方には、有効な手段とはいえません。その背景を少し説明させていただきます。度重なる訪問者に、住民の方は、「今度は何だ」「相談して何が解決するのか」という懐疑的な反応をされる方もあります。しかし、行政や専門家としては、潜在的なニーズの存在を予測しており、予防的な関わりを試みています。住民の方々の、いらいらや懐疑的な反応は、容易に解決しない被災地の問題の深刻さを象徴しているのではないかと思います。

1日目の来談者は、お一人でした。住民の方が発したマイナスのメッセージや一見無反応に見える反応には、多くのヒントが含まれていると捉えました。佐藤さんと二人で、2日目の手法を検討しました。2日目は、1日目に来てくださった一人の住民の方が語った「自治会の設立が大事だ」「ほとんど家の中にいるので、おかしくなる」という「発言」と、実際、相談室を訪れてくださったという「行動」を手がかりに、活動展開をしたいと考えました。1日目の一人の来談女性は、2日目に、相談室を覗いてくださいました。SWに対して、「ご近所さんも誘いたいので、今すぐ、一緒に来てほしい」と仮設住宅の方へ招いてくださいました。どのような組織が、どのような立場で、何を目的に、行う相談会かを説明をし、その女性の近隣の方をお誘いしました。

- この企画は、市役所からの要請で実施している相談会であること
- 当協会の説明
- 茶話会で仲間づくりをしよう
- 自治会の立ち上げ

等々のテーマです。

結果的に、集まった方は70代の方が8人でした。急遽、グループセッションを実践してみました。

家に閉じこもりっきりのことが多いことや、仮設住宅に入居後、3カ月を経過しているにも関わらず、住民同士交流がないということでした。はじめは、遠慮がちでしたが、このような機会を待っていたという声も聞かれました。潜在的ニーズはありますが、相談会形式では、マイクロレベルの対応で、支援効果が薄いことがわかってきました。相談会に関しては、マイクロレベルに加え、メゾレベルの効果も狙い、仮設住宅団地のコミュニティ形成をサポートしていくことから始めることが重要だと感じました。

遊楽館は、退所支援等のMSWの日常業務で活用しているスキルで展開できました。遊楽館という枠組みとは異なり、仮設住宅での支援活動は、医療ソーシャルワーカーの専門性を発揮するにしても、そのニーズ発見には、工夫が必要だと思われます。

遊楽館の終結前にも、市役所から他の活動についても打診を受けましたが、ソーシャルワーカーとしての活動内容がなかなか見えてこないところがあったと思います。第二幕は、何を医療ソーシャルワーカーとしての接合面とするのかの模索が必要だと思っております。

私たちの活動が、仮設住宅団地という比較的小さなコミュニティの中で展開して効果を出すためには、何をすべきなのか専門職として悩んでみる時期なのだろうと思います。今は、医療ソーシャルワーカーがジェネラリストとしての側面を十分発揮し、活動していくフェーズであるにとらえ、住民の方の潜在的な福祉ニーズを顕在化させ、「より良く」を模索する支援をしていけたらいいのではないかと思います。協会の災害支援は、あくまで現地の後方支援です。文字通り、私たちは、黒子として徹すべきだと肝に銘じておりますが、現実として、現地は人手不足であり、自治体としての悩みも深くなってきている面があります。私たちは、実践で培った洞察力と機動性を活かし、コミュニティワークを実践していけるはずで、効果を出せる社会福祉専門職として、被災地が復興するための滋養的なコミュニティ形成への支援活動に取り組んでいくことに意義を感じる相談会でした。皆さんも、ぜひ現地での活動を検討してみてください。よろしく願いいたします。何度も、ニュースレターでお伝えしておりますが、住民の方の在宅生活は、始まったばかりです。これから向かう冬を乗り切るには、寒さ対策は勿論のこと、孤独の回避、生活の質の向上など、多数の課題があることでしょう。何よりも、一人ひとりが主体性を持って生きていける人間の尊厳への尊重を基本とした援助活動を広げていきたいものです。

ソーシャルワーカーの団体は、「生活の視点」を持ちながら、地域を基盤とした支援を継続していくべきだと思います。支援方法や支援組織の形は色々ありますが、今協会が取り組んでいる石巻市の支援活動は総会決定事項です。より適切に運営できるように協力していくことが、一会員としての責務であると思っております。現地は、だいぶ冷えてきました。参加なさる方は、防寒対策をして、参加してください。掲載の写真は、飲茶の準備状況ですが、茶器や素敵なカップ、お皿、お盆などティーセットのご寄付を期待しております。まずは、カチツとした相談会ではなく、ホッとさせる茶話会から始めてみたいと思います・・・。一緒に取り組んでいきましょう。



6. 現地・事務所ボランティア感想文

現地・事務所ボランティアの思いや業務のことなど・・・一読ください。

現地ボランティア

10月17日(月)

佐藤(自宅)

朝晩は冷えてきましたが、日中はとても過ごしやすいです。古川から石巻への車中、側道のススキの揺れている姿が夕日に照らされてとてもきれいでした。

10月18日(火)

佐藤(自宅)

明日「からころステーション」の開所式です。こちらにスニーカーしか持参しておらず、先週・今週の市役所へのご相談の際は目をつぶってもらっていましたが、さすがにTPOを考えると…と思い石巻イオンでヒール靴を購入しました。

10月19日(水)

佐藤(自宅)

本日「からころステーション」の開所式に出席してきました。開所式は色んな方が出入りしていて、とても活気がありました。「からころステーション」は石巻市ささえあいセンター事業(心のサポート)を委託されることになるそうです。今後ケースによっては協働していければ良いと思いました。

10月20日(木)

佐藤(自宅)

本日の午後は、次回の茶話会/相談会のチラシをポスティングしました。時間によって見えてくる生活が異なります。昼さがりには、玄関先で爪切りをしているおばあさん、新聞を読んでいるおじいさん、シャボン玉で遊ぶ姉妹が穏やかに過ごしていました。夕方が近づくとつれ、小学生たちがボールけりを始め、犬の散歩をする人、買い物帰りの人が目につき、どこの家からか、焼き魚とかカレーとか煮物とか・・・おいしそうな香りを漂わせていました。玄関先に、犬を飼っている方(吠えられました!番犬です!!)、ガーデニングをされている方(これまでもされていたのでしょうか、とっても綺麗です)、生活を営むということの意味を深く考えさせられます。

今後、この茶話会/相談会のポスティングを見守り隊の方にお願しようかと効率的なことを考えていましたが、SWとして、こうして今の生活を知る、感じることはとても大切なことのような気もしてきました。

これからの業務の内容や量にもよるのかもしれませんが、検討課題の一つです。無意識のうちにも、現地で被災者と同じ空気を吸い、石巻の人たちの生活を感じられる時間でした。

10月21日(金)

佐藤(自宅)

昨晚~今朝はこの秋一番の冷え込みで、とっても寒かったです。これからのボランティアの方には、各自の防寒対策をお勧めします。特に女性の方は、冷えないように工夫して頂けると良いと思います。

10月22日(土)

佐藤(自宅)

本日は第3回の相談会でした。来談者は1名でした。茶話会と銘打ったためか、自治会発足の為の会だと思い、皆も来ていると思って・・・と来所してくれました。自治会の必要性を強く訴えられていらっしゃいました。

10月23日(日)

佐藤(自宅)

本日は、8名の方が集まり、茶話会形式でお話を伺えました。とても嬉しかったです。

同時に、この委託事業の目標が「仮設住宅での孤立(死)を予防する」ということを考えると、SWとしてコミュニティの形成を促進するような働きが求められているのかも・・・と皆様の話を聴きながら思いました。

事務所ボランティア

10月17日（月）

取出（初台リハビリテーション病院）

7日ぶりの事務所は、見違えるほど美しくなっていました！！常勤（ではないけれど）の一原さんの力を感じます。今後の事務所のあり方も相談しながらやっています。相談会に対するアイデアを事務所ボランティアからも出していきたいと思います！！

一原（自宅）

今日は取出さんが来て下さり、ミニ事務所会議を開き、業務改善などについて話合うことができました。この事業がより良いものになるよう工夫していきたいと思います。

10月19日（水）

東（初台リハビリテーション病院）

今日は一原さんと一緒に心強かったです。色々な資料が整備されつつあり、感動しました。これからも一原さんの後方支援をがんばります。

10月20日（木）

笹川（初台リハビリテーション病院）

約1ヶ月ぶりに来てみると…素晴らしく整理・整頓がされていてびっくり！！やろうと思いつつ今まで出来なかったもので…。とても見やすく、使いやすくなりました。皆さん、ありがとうございました。

10月21日（金）

芦田（初台リハビリテーション病院）

現地の佐藤さんからメールと現地の写真が送られてきました。被災者の生活に寄り添いながら支援をされていることに胸があつくなりました。現地ボランティアの皆さんが活動しやすいよう陰ながらサポートしていくぞ！！と身が引き締まりました。